

「古今の物理学者の肖像」(i) ~ (iii)

スーパーサイエンスハイスクールとは文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度のことで、SSHと略記される。その目的は「高等学校及び中高一貫教育校における理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究」とされている。

この全国的な制度は2002年度に開始され、大学における科学研究費と同様に、複数年にわたり継続支援がなされ、年度を追うごとに選抜校の数と、その予算額は増額傾向にある。2011年度には145校が指定された。

その内の一つに私立市川学園・市川高等学校(千葉県)があるが、5ヶ年間の指定を受けて理数科課程の教育実践に注目すべき成果を挙げていることを、私が現在所属しているNPO活動と関わりがあって、承知している。

偶々、その中で物理の副読本“*Investigation Physics Course For Scientists Tomorrow*”(A4, 298 pp; 内容は日本語)を寄贈された。パラパラページを繰ったら、「物理学者の肖像」が2ページに48枚も掲げてあるのが眼に入った。

目次から、1. Kinetics; 2. Sound and Light; 3. Electronics and Electro-Magnetics; 4. Thermodynamics; 5. Nucleus and Quantum; が豊富な図版入でよく纏めてある。自習用として予想外に程度が高い。学校側の意欲を見た思いである。

さて、前置きが長くなりました。

「アイソマーズ通信」には従来から、有志による「ドイツ化学史の旅」の興味深い見聞が寄せられていて、我々を楽しませてくれている。また、それに触発されて、明治開化期における化学全般に功績を挙げた先達の物語も多々述べられている。翻って、物理の人脈が語られることは、これまであまりなかったように思われる。そこで、初めての試みとして、これを皆さんにお目に掛けるべく、「アイソマーズ通信」に投稿する次第です。

よく言われるように、20世紀の物理学は「原子構造の解明」によって明けたと言われている。「物理学者の肖像」(i) (ii) (PDF)を見れば、そのことは一目瞭然である。そこで、これを手近に置いて、それぞれの業績を知る縁とするには格好の資料ではないかと考えた。(残念ながら、これには誤植がかなり見受けられる。殊に、Wolfgang Ernst Pauliに注意。なお、肖像写真の引用は、殆どがWikipediaに由来したものである。)

この中に、Galileo Galilei (1564–1642) と Isaac Newton (1642–1727) とがないのを見過ごすわけにはいけないので、「物理学者の肖像」(iii) (重複を含むが、16枚)を上にも真似て自作してここに加えた。このように、それぞれの生没年を調べるのも一興ではありませんか。記述に精粗はあるが、Wikipediaで調べるのは、なかなか楽しいものでした。

Lise Meitner の Wikipedia にある肖像写真は、コピー禁止になっている：何故か、これに関しては別の機会に譲る。